

さいたま市長 2月定例記者会見

平成29年2月3日（金曜日）

午後1時30分開会

- 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。  
それでは、記者クラブ幹事社の朝日新聞さん、進行をよろしくお願いたします。
- 朝日新聞 2月の幹事社を務めます朝日新聞と申します。  
それでは、本日の記者会見内容につきまして、市長からご説明をお願いいたします。
- 市 長 皆さん、こんにちは。

明日は立春、暦の上では春ですが、まだまだ冬本番といったところでしょうか。現在インフルエンザが流行しております。市内の定点医療機関からの患者報告数が1,920人、定点当たりの報告数が流行警報開始基準値であります30人を超える46.83人で、先週より増加をしているという状況にあります。さらに、インフルエンザによる学級閉鎖も43校、96学級となっております、大きな流行が継続していると見られます。

空気も大変乾燥しております。手洗い、うがい、咳エチケットを行うなど感染予防に心がけていただくとともに、睡眠、食事といった体調管理にもご留意いただき、健やかに過ごしていただきたいと思っております。

### 市長発表：議題「さいたま市議会2月定例会提出議案について」

それでは、本日の議題に移らせていただきます。

議題「さいたま市議会2月定例会提出議案について」ご説明をさせていただきます。

平成29年さいたま市議会2月定例会を2月7日に開会いたします。提出議案数は82議案でございます。内訳としましては、専決処分報告議案が2件、予算議案が34件、条例議案が35件、一般議案が2件、それから道路議案が2件、そして人事議案が7件でございます。

次に、予算議案の特徴についてご説明させていただきます。平成29年度の当初予算は、予算要求時点では多額の収支不足が生じる大

変厳しい予算編成となりましたが、次の4点につきまして予算の特徴として進めてまいります。

まず、1つ目でございます。「さいたま市総合振興計画」や「さいたま市成長戦略」、「さいたま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」等の計画を着実に実施し、「CS90運動」を推進することで、より多くの市民が住みやすいと感じる都市の実現に向けた予算となっております。

次に、2つ目でございますが、東日本のヒト・モノ・情報が対流する拠点と位置づけられた本市が東日本の各市と連携を強化し、東日本の中枢都市として成長発展するための取組を強化する予算となっております。

そして、3つ目でございます。子育てがしやすい環境整備やきめ細やかで質の高い教育の提供、いつまでも健康で充実した生活を送るための超高齢社会への対応、安心安全に暮らせるまちづくりなどの施策に重点的に配分をした予算となっております。

次に、4つ目でございますが、新設小中学校及び新設消防署などの整備、大宮駅、浦和駅周辺の市街地再開発事業など、本市の将来を見据えて、「選ばれる都市」、「しあわせ実感都市」の実現に資する事業へ積極的に投資する予算というのが大きな特徴でございます。

続きまして、予算の規模についてでございます。まず、一般会計は県費負担教職員の給与負担等の移譲等に伴います経費、また民間保育所の運営に当たります特定教育・保育等運営事業の増加などによりまして、前年(度)比13.0%増の5,301億円でございます。なお、県費負担教職員の給与負担等の移譲に伴う経費476億円の影響を除きますと2.9%増、4,825億円となります。

特別会計につきましては、国民健康保険事業特別会計など合わせまして15の特別会計から成るものでございますが、前年(度)比2.4%増の3,372億6,900万円となっております。

続きまして、企業会計でございますが、企業会計は下水道事業会計など合わせまして3つの会計がございますが、前年度と比べて6.1%増で1,223億4,331万7,000円となっております。

全部合わせますと、昨年度と比べ8.3%増の9,897億1,231万7,000円となっております。一般会計及び全会計の予算総額としまし

ては過去最大の予算規模となっております。

次に、主な新規または拡大事業についてご説明させていただきたいと思っております。まず、1番目でございます。「大宮の新たなエンジンが始動」として、「東日本をリードする大宮のまちづくり」ということについてご説明をさせていただきたいと思っております。これは、大宮駅東口のリーディングプロジェクトであります大門町2丁目中地区の市街地再開発ビルの着工に向けて積極的に支援をするものであります。また、東日本中枢都市構想に位置づけられております大宮駅グランドセントラルステーション化構想の実現に向けて、駅機能の高度化などについて具体的に検討を進めていくものでございます。予算総額としまして、合計で40億6,156万6,000円となっております。

2番目としましては、「東日本のヒト・モノ・情報が結集するまちへ」として「東日本各都市を結びつける東日本の連携（への取組）」についてでございます。これは、交通の結節点という強みを活かして東日本地域の交流人口の拡大やビジネス活動の促進を図るために（仮称）東日本連携支援センターの開設に向けた準備を進めるものでございます。また、東日本の特産品等を活用しましたにぎわいの創出に対する支援や東日本連携各都市との広域周遊ルートの検討などを行うものでございます。予算額は合計で1億153万7,000円となっております。

3番目は、「安心して子育てができる環境づくりを目指して」といたしまして、「認可保育所の定員増と処遇改善を含めた保育士確保策」についてでございます。これは、高まる保育ニーズを踏まえまして、認可保育所等の新設、増改築などの施設整備に補助等を行うことによりまして、定員を1,332人増員するものでございます。また、保育の受け皿拡大に伴い、必要となる保育人材を確保するため、小規模保育施設や市が認定をいたしました認可外保育施設の常勤職員に対する処遇改善費の助成、それから首都圏で保育士として就職を希望する地方の学生を対象に市内保育施設へ就職するイメージを実感できる保育体感ツアーを新たに実施するものでございます。予算額は合計で35億3,920万円となっております。

4番目としましては、「安心して子供を産み育てられるまちへ」ということで、「妊娠・出産包括支援センターの全区設置と産後ケアの実施」でござ

います。これは、妊娠期から出産前後の時期の母親に対します支援を強化していくために妊娠・出産包括支援センターを全区に拡大するものでございます。また、このセンターや医療機関等と連携しまして、産後に心身の不調や育児不安のある母親に対しまして、助産師等によるアウトリーチ型の支援を新たに実施するものでございます。予算額は合計で4,490万9,000円となっております。

続きまして、5番目でございますが、「世界に羽ばたく人材の育成へ」といたしまして、「英語教育「グローバル・スタディ」の充実」でございます。グローバル社会で主体的に行動し、たくましく生きる児童生徒の育成を目標に小中一貫した教科として英語教育「グローバル・スタディ」を全ての市立小学校で授業時間数を大幅に拡大して実施するとともに、学習意欲を高めるため、イングリッシュキャンプを実施するなど体験活動の充実を図っていくものでございます。予算額は合計で4億3,846万5,000円となっております。

6番目は、「一人ひとりの教育的ニーズに的確に対応」といたしまして、「小学校における発達障害・情緒障害通級指導教室の拡充」でございます。これは、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童に対しまして的確な指導、また支援が行えるよう、発達障害・情緒障害通級指導教室を現在の8教室から新たに20教室新增設いたしまして、28教室に拡充するものでございます。予算総額は6,397万円となっております。

続きまして、7番目でございます。「長寿を応援する社会を」といたしまして、「新しい総合事業のスタート」についてでございます。これは、誰もが住みなれた地域で生き生きと輝きながら、いつまでも元気で自分らしく暮らせる地域社会を構築していくために、地域の事情に応じた介護予防の取組を効率的、効果的に行うことができる新たな総合事業を実施するというものでございます。予算総額といたしましては4億5,954万7,000円となっております。

続きまして、8番目でございます。「はじめよう！！「健幸」への第一歩」といたしまして、「健康マイレージとシルバーポイントの融合」についてご説明いたします。これは、継続的に健康づくりに取り組む市民を増やすために、歩数や各種検診の受診に応じました特典を市民が受けられる健康マ

イレージに介護予防の観点を加味しまして、65歳未満の年齢上限を撤廃して、対象者を拡大していくとともに、健康マイレージで貯めましたポイントをこの長寿応援制度のポイントと交換可能にするというものであります。予算額の合計は2億5,321万3,000円となっております。

続きまして、9番目でございます。「さらに地域の医療を支える病院へ」といたしまして、「市立病院の建て替え整備」についてでございます。これは地域が抱える医療的な諸課題に対応するとともに、市民が可能な限り地域で必要な医療を受けることができる地域完結型医療の要としての役割を果たせるよう、救命救急センターや緩和ケア病棟など新たな機能を含めた施設整備を実施して、安心・安全な医療の提供と医療機能の充実及び強化を図るというものであります。予算につきましては、61億2,667万7,000円となっております。

10番目でございます。これは、「地域資源を生かしたまちづくり」といたしまして、「盆栽・人形文化やスポーツのまちを世界に発信」としてございます。これは、長い歴史と伝統によって生まれ、地域に根差し発展してきた盆栽文化あるいは人形文化を世界に発信していくために「第8回世界盆栽大会 in さいたま」を開催するとともに、(仮称)岩槻人形博物館の整備を進めていくものでございます。また、スポーツの国際大会を開催することによりまして、都市のブランド力を向上させ、「スポーツのまち さいたま」を国内外に発信するものでございます。予算額は合計で9億6,619万9,000円となっております。

続きまして、11番目でございますが、「安心・安全に暮らせるまちづくりを」といたしまして、「耐震化の促進や歩道の整備などの推進」についてです。これは、安心・安全に暮らせるまちづくりを進めていくために民間建築物の耐震補強等の助成を実施し、耐震化を促進するとともに、橋梁の耐震化、また幹線道路の歩道の整備、そして生活道路の安全対策でありますゾーン30の整備、また踏切内の歩行空間整備を行う踏切改良などを実施するものでございます。予算額は合計で34億6,448万4,000円となっております。

続きまして、12番目でございます。「将来世代に安心・安全な公共施設を引き継ぐために」といたしまして、「共施設マネジメントの推進」でござ

います。これは、公共施設の老朽化が進む中、将来にわたり安心・安全で持続的な施設サービスを提供するため、施設の長寿命化を図る予防保全という考え方にに基づきまして、プラザイーストほか20施設の工事、浦和駒場体育館ほか18施設の設計等を実施するなど、公共（施設）の計画的な改修更新を推進するものでございます。予算は合計で51億482万円となっております。

続きまして、主な条例議案についてご説明いたします。まず、1つ目は「さいたま市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例」についてでございます。これは、他の政令指定都市、近隣市等の状況を踏まえまして、消防職員にとって適正な給与制度を構築するために、消防職の給料表及び等級別の基準職務表を創設するため、条例の一部を改正するものでございます。

2つ目が「さいたま市子ども家庭総合センター条例」でございます。これは、子ども及び家庭を取り巻く課題に総合的に取り組み、子どもと家庭、そして地域の子育て機能を総合的に支援する中核施設としまして、「さいたま市子ども家庭総合センター条例」を制定するものでございます。

私からの説明は以上です。

## 議題に関する質問

### 「ハード整備に積極的な予算について」

○ 朝日新聞

ありがとうございました。

ただいま市長からご説明いただいた案件について幹事社から1つ伺います。厳しい財政状況が今後見込まれる中、今年度の予算では非常にハード整備の予算があるのが特徴かなと思うんですけども、このタイミングでこういうところに積極的に予算を投じていく、そういうことについて市長はどのような姿勢で予算を組まれたのでしょうか。

○ 市長

昨年度、これまでさいたま市も東日本の中枢都市づくりを進めていこうということでプロジェクトを進めてきたわけでありましたが、それに加えてさらに国の首都圏広域地方計画の中で東日本の対流拠点という位置付けをいただき、またさまざまな形で国からのバックアップということも受け入れられる、そんな環境ができましたので、これから10年、まさに人口減少までの一つの目安の期間ということになっておりますので、それまでに

やっておかなければいけないまちづくりであるとか基盤整備、これはさいたま市が持続的に成長発展をしていくためのまさに基礎となるものだろうと思っておりますので、その分野に力を入れて、今だからできることということで、予算を重点的に配分させていただいているということでございます。

○ 朝日新聞            ありがとうございます。

では、ただいま発表の案件について質問があればお願いします。

### 議題に関する質問

#### 「借金をしてもハード整備をしていく理由について」

○ 日本経済新聞        日経新聞です。

今のちょっと幹事社さんの質問でも関連するんですけども、市債残高も恐らく過去最高だと思いますし、プライマリーバランスのマイナス部分もちょっと増えていますけれども、市長がおっしゃられたような今できることということですけども、まだ税収がふえているとか、そういう状況も踏まえて、借金をしてでもいろいろ整備していきたいということなんでしょうか。

○ 市 長            これまでさいたま市としては、特に私がやってきた予算編成の中では、プライマリーバランスをかなり重視して、黒字化というのを基本的には予算の段階では意識してやってきたつもりなのですが、やはりこの10年間、人口減少するまでの間に、人口減少局面に入るとむしろ大きな投資がもうできなくなるという状況がありますので、だからこそのうちの、もちろんバランスというものを十分意識したものにならなければいけませんけれども、その中でできる限りの積極的な予算をつくっていかうという意識でやっております。

また、あわせて市債の部分について言うと、今金利が非常に低下しているという状況もございますので、そういったこともあわせて意識をしながらやっていく必要があると考えております。

また、市債残高については、臨時財政対策債を除けば、これまでも一時的に上がったたり下がったりすることはありますけれども、8年前に就任したときよりはやや減少しているということもございます。ですから、その辺のバランスは意識はしておりますけれども、ただこれからは少し、金利

が低いということもありますし、将来に向けて今だからこそできることをしっかり対策としてやっておくべきだという考え方の中で予算編成をさせていただいております。

○日本経済新聞      ありがとうございます。

### 議題に関する質問

#### 「義務的経費の割合が上昇していることについて」

○ 読売新聞      読売新聞と申します。

今回の予算の中で、いわゆる歳出の性質別で、いわゆる義務的経費が54%ぐらいで、昨年よりも少し割合としては上がっているのかなと思いますが、この辺の54%という割合についてどうごらんになるか、財政上やはり硬直化が進んでいるのかどうか、そのあたりをちょっとお聞かせいただけますでしょうか。

○ 市 長      54%、年々この義務的経費が増加をしているということについてはお話のとおりだろうとっております。長期的なスパンで見ても多くの予算が、多少年度によって増減はあったとしても、一番増えているのがいわゆる民生費の部分でございますので、私たちとしてはその義務的経費の割合がやはり年々高齢化の進展とともに、また子育て支援といったようなことも拡充しておりますので、そういった中でそういった傾向が出ているということとは言えると思うのです。その中で大きくバランスを崩すことはできませんけれども、そのでき得る範囲の中で、投資的な経費にも充てていって、持続可能な成長につなげていきたいとっております。

○ 事務局      今回義務的経費が大幅に伸びているところが、特に県費負担教職員の人件費の増がかなり大きな増額のウエートを占めておりますので、その財源については、基本的に国のほうで賄われるということがありますので、大幅な増の中で、今市長がおっしゃった扶助費、公債費の部分が aumentando ことは事実でございますので、十分気をつけなければいけないと思うのですが、大幅に増えているところは、そういうところが要因ですので、そこは少し特殊要因と捉えていただければと思います。

○ 読売新聞      わかりました。ありがとうございます。

### 議題に関する質問

#### 「保育所の定員拡大等、子育て支援策について」



○ 東京新聞 東京新聞といます。  
保育所の定員拡大とか子育て支援策についてなんですが、国を挙げて取り組んでいる中で、さいたま市としても限られた予算の中で、市長としてどのように工夫して予算づけされたか、苦心したようなことがあったら教えてください。

○ 市長 やはり保育所については、1つは量的にも保育所を増やしていくという取組と、またあわせてこの質をしっかりと担保していかなくてはなりません。そのためには、保育士をしっかりと確保するという対策が必要だと思っておりますので、そういう意味では単にハード的な整備という視点だけではなくて、あわせて保育士の確保、雇用を確保するための対策事業もあわせて行わせていただいて、その中でより一層安心して子どもを預けていただける、そんな環境をさいたま市としてはつくっていきたいと考えております。

### 議題に関する質問

#### 「さいたまクリテリウムについて」

○ 日本経済新聞 ちょっと細かいことになってしまうんですけども、主な予算のところ、クリテリウムも入っていますけれども、これ一方で本編のほうの資料を拝見すると、31年ごろでしたっけ、民間に移行するための調査費というのが400万円かなんか、たしか入ったと思うんですけども、これはどういう意味があるのかということをご教えていただければと思います。

○ 市長 このスポーツ事業については、できるだけ将来的には民間の機関で運営されていくことが望ましいだろうと私たちも考えておりまして、その中でできるだけ移行しやすい環境づくり、またそのためにどういう組織にしたらよいかということも含めて、(来)年度からより詳細に検討を進めていこうということで予算を計上してございます。

### 議題に関する質問

#### 「新規の目玉事業について」

○ 読売新聞 今回の予算の中で、さまざまな事業を挙げていただきましたけれども、市長として今回の予算の中で一押しの新規事業などございましたら、挙げていただけるとありがたいと。目玉をお願いします。

○ 市長 一押しと言っても、3つぐらい出てきてしまいますけれども、基本的に

はさっきも特徴の中で申し上げていますが、一つはやはり東日本の対流拠点という位置付けをいただいた中で、持続可能な成長をしていくために事業を進めていかなければいけないと考えておりますので、特に大宮駅グランドセントラルステーション化構想に関連する予算であるとか、あるいはまちづくりについての予算というのがまず一つです。

それから2つ目が、やはりこれまでと同様に、あるいはそれ以上に子育て支援対策を強化しようということで予算編成をさせていただきましたので、それについてが2つ目。

そして3つ目が、やはり次の高齢社会に向けて考えると、何といたっても地域包括ケアシステムを含めた、先ほど言いました総合サービスもその一つでありますけれども、健康で長生きをしていくということと地域の中で支えていくという、この辺の事業の予算化をしたところが3つ、特に私たちとしては重点的に思い入れを込めて入れさせていただいたところがございます。

### 議題に関する質問

#### 「新年度予算のキャッチフレーズについて」

○ 埼玉新聞

埼玉新聞と申します。

今回の当初予算案なんですけど、あえてキャッチフレーズをつけるとすると、どういったものになりますでしょうか。

○ 市長

「運命の10年への発進予算」と名づけたと思います。

### 議題に関する質問

#### 「独自色を込めた予算編成かどうかについて」

○ 読売新聞

今回の予算編成の中で、先ほど挙げていただいたようなまちづくり、子育て支援、高齢化、この辺は今回も清水市長の独自色を込めた予算編成というような認識でよろしいでしょうか。

○ 市長

はい。そう思っています。

### 議題に関する質問

#### 「骨格予算とせず通常予算としたことについて」

○ 読売新聞

1月の年頭会見の際に、予算編成としては骨格予算にはいたしませんということで、その理由としては、5月の市長選が行われる関係で、執行がその後だと難しくなってしまうというふうなご説明をなさっておられまし

たけれども、基本的にはその後、主要な事業については今回挙げていただいた新年度予算の中に含まれているというふうな理解でよろしいでしょうか。

○ 市長 はい。

### 議題に関する質問

#### 「予算議案の修正を求めるという意見に対する対応について」

○ 読売新聞 この予算案について、議会なんかからは対案を出すという話とか、修正を求めたいというふうな意見が出ているようですけれども、その辺には今後どのように対応なさっていくのかなど。

○ 市長 来年度予算案についてはこれから議会に提出をしまして、議会において慎重なご審議、またご議論をいただくものと考えております。現時点でその修正云々という仮定の話についてはお答えすることはできません。

○ 読売新聞 応じる応じないとか、その辺はいかがですか。

○ 市長 まだご審議、ご議論をいただいておりますので、現時点でそれをどうするという考えは今は持っておりません。

### 議題に関する質問

#### 「東日本の中枢都市に向けて最も力を入れたい施策について」

○ 埼玉新聞 埼玉新聞です。

ちょっと同じような質問になってしまって恐縮なんですけれども、ことしは東日本の中枢都市に向けて、大宮駅周辺を開発したりとかして、始動する第一歩になる、本格的に動き出す年だと思うのですが、東日本とそれに絡めた大宮駅周辺の整備を考えた場合に、ことし一番核になるのか、一番これは進めておきたいというのはどういう項目になるんですか。その東日本と大宮駅の整備の中で、一番力を入れていきたいのはどの施策になるのでしょうか。

○ 市長 1個だけというと困りますが、1つは大門町2丁目中地区の再開発事業と、それからやはり今大宮駅グランドセントラルステーション化構想について、推進会議を設けてご議論いただいております。基本的には、ここの

駅の機能の高度化、それから駅への交通アクセスの問題、それから駅周辺のまちづくり、これを一体的に考えて、この方針を示すことによって、基本的には大宮駅周辺は多くは民間の皆さんの所有している地域になりますので、そこが決まってくないと、なかなか周辺にいい影響を及ぼせないだろうと思っておりますので、その方向性をしっかりと指し示していくということの中で、やはり周辺の今さまざま（協議会）であるとか、あるいは準備組合などがつくられている地区もありますので、そういったところにさらにそういった取組を促せるようにもしていきたいと思っております。

また、あわせてハード面だけではなくて、一昨年から東日本連携フォーラムを進めておりますけれど、フォーラムだけではなくて具体的な事業化をしていく最初の年、本格的にやるという意味では最初の年になると思っておりますので、その3つが重要な鍵を握ってくるのかと思っております。

○ 埼玉新聞 東日本のゴールデンルートづくりとか、いろいろそういうほかの都市との連携を含めた進展も考えなければいけないと思うのですが、その前にどちらかというと大宮駅周辺をちゃんと固めてからということになるわけですか。

○ 市長 ソフトとハード両方がないといけませんので、これは車の両輪だろうと思っておりますので、ソフト的な部分とハード的な部分、特にハード的な部分はタイミングがずれてくると、なかなか進められるものも進められなくなってしまうと思っておりますので、今は進めやすい環境にあるだろうと私自身は思っておりますので、そのタイミングを逃さずに進めていきたいと思っております。

○ 朝日新聞 朝日新聞と申します。  
細かい部分の確認で恐縮なんですけど、予算の特徴の中の②で言っている東日本の中枢都市としてと言っているこの中枢都市というのは、大宮だけを指すのか、あるいは浦和、あるいはその周辺も含めたものなのか、改めてちょっと確認を。

○ 市長 これまでも中枢都市という意味では、大きくは2つあると私自身は考えています。1つは、いわゆる交通の結節機能を高めていくということです。交通というのはどういうものかという、1つは道路です。広域的な道路。

これは、今年度から事業化がされましたけれども、新大宮上尾道路、要するに首都高速道路を北に伸ばしていくと。将来的には圏央道まで延ばしていくという考え方と、もう一つは現在大宮見沼でとまっている首都高速道路をさらに東に伸ばして、東北自動車道までつないでいくという高速道路網。

それから、鉄道網では大宮駅の機能の高度化もその一つですし、新幹線の始発化もその一つですし、地下鉄7号線あるいは東西交通大宮ルートもその一つでありますし、空港へのアクセスを強化していくということもその一つであります。

それから、もう一つ大きな柱としては、要するに都市機能を高めていく、向上させていくということです。これは、2都心4副都心ということでさいたま市は多核ネットワーク型の都市という構造で今都市づくりをしているわけですが、特に2都心というのは大宮駅周辺とさいたま新都心周辺を一つの都心、それから浦和駅周辺を一つの都心、それから4つの副都心は日進・宮原、武蔵浦和、浦和美園、それから岩槻としていますが、この2都心4副都心の都市機能を高めていく。交通の利便性が非常に高いということのさいたま市の持っている強みをどういうふうに地域の中に還元していくか、あるいは地域全体にプラスに働かせていくか、そのための都市機能をこの2都心4副都心という考え方の中で高めていく。また、これはもちろん市民の皆さんの利便性も含めてでありますけれども、高めていくという、そういうことで東日本の中枢都市と申し上げています。

大宮駅周辺のまちづくりは、あくまでもその中の1つと。2都心4副都心の1都心のうちの1つということで、特にこれまでその2都心の中ではややおくれた感がありましたので、そこをこころしはさらに進めていくという、さらに大きく前進させられる大きな年になる、こういう意味で捉えていただければと思います。

## 幹事社質問：

- (1) 待機児童について
- (2) 相模原市の障害者施設の事件を受けて、退院後の支援について
- (3) さいたまシティカップについて

### ○ 朝日新聞

ほかにございませんでしょうか。

それでは、幹事社質問に移らせていただきます。3つございます。

1つは待機児童についてです。待機児童数は、現在各市町村によって数え方が異なると思うんですが、厚生労働省が先日、認可保育所に入れず、やむを得ず育児休業を延長した保護者の子供について新たに待機児童として扱う考えを有識者検討会に示しましたが、さいたま市は17年4月時点での待機児童ゼロを目指していらっしゃると思えますけれども、こうした国の定義変更について市長としてどういうふうにお考えでしょうか。また、ことし4月の保育所入所希望数、今いろいろ皆さんご努力されているということと思えますけれども、現時点の状況をお聞かせください。

2つ目は、昨年相模原市の障害者施設で起きた殺傷事件を受けて、厚労省が設けた検討チームで、都道府県とか政令市が、こういう方の退院後の支援計画を作成するという方向性が打ち出されて、これらに基づいて厚労省が今国会に精神保健福祉法の改正案を提出予定というふうに聞き及んでいるんですが、保健所を設置しているさいたま市として精神障害者の方の退院後の支援について取組の現状と、今後こうした法改正も見込まれる中で、どういうふうに対応を考えていらっしゃるかというのを伺いたと思います。

最後3つ目は、2月17日に4年ぶりにさいたまシティカップが開催されますけれども、市長としてどのような期待をいらっしゃるか。この3点についてお伺いいたします。

### ○ 市長

それでは、幹事社からの質問に順次お答えいたします。

まず、1つ目の待機児童の質問についてお答えをしたいと思います。現在国におきまして、待機児童の定義変更を検討しているということについては承知しておりますけれども、本市としては現在は現行のまず定義にお

いて、本年4月に待機児童解消を実現することを目指しているというふう  
に考えております。

本市では、現行の定義に基づいて、待機児童数から育児休業中の方を除  
外しておりますが、新しい待機児童の定義については本年度中に示される  
と聞いておりますので、国における検討状況を注視してまいりたいと考  
えております。新しい待機児童の定義が示された際には、その定義に基づ  
いて待機児童数を算出する予定と考えております。

また、平成29年4月の認可保育所や認定こども園、小規模保育事業な  
どの新規の利用申し込み状況につきましては、一時利用調整時点でありま  
すけれども、7,647人が申し込みをされているということでありまし  
て、昨年度の7,044人と比較して603人増加いたしております。

認可保育所等の定員につきましては、本年度は1,410人増加させる  
施設整備を行い、定員19人以下の小規模保育事業等を含めますと  
2,068人分の定員を拡大いたしました。

本市では、本年4月の保育所等の待機児童解消を目指して積極的な施設  
整備に取り組んでいるところがございますけれども、女性の社会進出であ  
るとか共働き世(帯)の増加などの社会環境の変化によりまして、保育所  
等の利用を希望される方々が年々増加していると考えております。新年  
度予算におきましても約33億円をかけて、平成30年4月の開設に向け  
て認可保育所等の定員を1,332人増加させる施設整備を予定をしており  
ます。引き続き子育て世代の不安を解消し、安心して子育てできる環境  
を整え、保育の質を低下させることなく、保育を希望される方が一人でも  
多く保育施設を利用できるように、需要を適切に踏まえた形で施設整備を  
進めてまいりたいと考えております。

続きまして、2番目の質問、相模原の障害者施設の事件についてお答え  
をしたいと思います。相模原市の障害者施設で、入所者19名が刺殺、入  
所者と施設職員27名が重軽傷を負うという痛ましい事件が昨年7月  
26日に発生をし、半年が経過いたしました。亡くなられた入所者の方々  
に改めて哀悼の意を表するとともに、負傷された方々には一日も早く回復  
され、日常生活が取り戻せるよう願っております。

国は、事実関係の検証と再発防止策を協議するため検討チームを設置し

て、昨年12月8日に最終報告がまとめられました。今後、国におきまして、報告書をもとに新たな支援策が示されるものと思っております。このような悲惨な事件が二度と起きないために、国の動向を注視しながら本市においてもより充実した支援が行えるよう、対応していきたいと考えております。

全ての人々が地域、暮らし、生きがいをともに作り高め合う地域共生社会の推進の観点からも、さまざまな障害をお持ちの方への誤った認識が、この事件後に社会に広まってしまうことは、断じてあってはならないことだと思っております。本市では、措置入院中から可能な限り本人と面会するとともに、法に基づきまして患者や家族に電話や面接、家庭訪問などで相談、助言を行っております。

市内の帰住予定の入院患者の多くに対しまして、退院後の訪問看護やヘルパー、デイケア等の医療、福祉サービスを導入するため、入院中から医療機関やサービス事業所と調整をさいたま市として行っております。検討チームが示しました再発防止支援策のうち、関係者による調整会議、退院後支援計画について、さいたま市では上記のとおり、形式的には（整っていないものの、）同様の趣旨で対応している部分も既にございます。治療の必要性を認識しづらい患者にあっても、治療の中断を防いで支援者とのつながりを維持できるよう努めているところでございます。また、3カ月を超えて措置入院しているケースにおいては、精神医療審査会におきまして状況を把握いたしております。

今後についてでございますが、精神保健福祉法が改正されますと全措置入院者に対しまして、退院後の支援計画の作成、それから関係機関との調整会議の開催という業務が新たに加わってまいります。相談支援を行う職員の質を高めるための研修を積極的に活用するとともに、国が新たに示します支援策の実施体制を整えるため、検討が必要になると思っております。

検討チームが示しました再発防止、また支援策の考え方は、既にさいたま市で取り入れている部分もございます。今後国が示す調整会議や、あるいは退院後の支援計画の具体的な事項なども踏まえながら、速やかに対応できるように努めていきたいと考えております。



続きまして、3点目です。さいたまシティカップへの期待についてお答えをしたいと思います。3年半ぶりでございますけれども、さいたまシティカップが昨シーズンの韓国Kリーグクラシック王者でありますFCソウルを招いて、我々が浦和レッズとの対戦によりまして、また数々のレッズの歴史が刻まれ、サポーターにとっても聖地と言える浦和駒場スタジアムにおいて開催できるということを大変うれしく思っております。

さいたまシティカップは、「サッカーのまち さいたま」を象徴するとともに、また大いにアピールできる事業でありますので、さいたま市民をはじめとする多くのサッカーファンに楽しんでいただきたいと思います。

また、対戦相手のFCソウルは、2年連続ACLでも対戦することが決まっているライバルチームであり、ACL前哨戦としてアジアを代表する両チームのプライドをかけた熱い戦いが、聖地駒場で繰り広げられることを期待いたしております。

### 幹事社質問（1）に関する質問

○ 朝日新聞 今お答えいただいた内容で待機児童数について、1点だけ幹事社として補足の質問をさせていただきます。

今回厚労省の定義変更というのは、あくまでも実情をより反映した数字にしようというようなご趣旨かと思うんですけれども、今回待機児童数ゼロを目指すというさいたま市の数字なんですが、あくまでも現在の定義でゼロとなった場合、目標を達成したというふうに認識されるのでしょうか。

○ 市長 1つは、これまではこの現行の基準をベースにして取組を進めてきましたので、やはり基本的にはその現行の定義についてどうだったかという評価をしなければいけないと思っております。

ただ、実際にはそういった方々プラスアルファのニーズも当然あるわけでありまして、そういった方々に対してもきちんと、保育施設が整備されることが望ましいと思っておりますので、新たな定義が明確に国から示された場合には、当然その数値も発表して、あわせて来年度以降の取組について考えていく、検討していくということになると思います。

○ 朝日新聞 それでは、代表質問に関して質問がある社はお願いいたします。

それでは、そのほかに質問のある社はお願いします。

### その他：保育士の確保について

- 埼玉新聞 埼玉新聞と申します。
- 待機児童に関連してなんですけれども、定員増を今図っていらっしゃるということでお伺いしたんですけれども、定員増と同時に、それを受け入れる側の認可保育所等の保育士の確保も非常に喫緊の課題になっているかと思われまます。昨年から、さいたま市ではプロモーション活動を行うなど、採用活動に力を入れていらっしゃるというふうにお伺いしましたが、4月1日の待機児童解消に向けて、保育士の確保の状況というのはどのようななっていますでしょうか。
- 市長 現時点でのということですね。
- 事務局 保育課でございます。
- 昨年行いましたプロモーションの活動の結果についてでございますけれども、保育園は3月ぎりぎりまで採用活動を行っておりまして、今現在、1月末現在の状況を各施設に対して問い合わせしているところでございまして、まだ状況は把握してございません。
- 埼玉新聞 確認ですが、これは4月1日に待機児童を解消されるということを前提に、保育士不足も解消されるということで、そういう保育士も確実に人数が確保できる見込みであるという解釈でよろしいのでしょうか。
- 市長 基本的には、保育士がそろった形で定数が賄われると思いますので、当然そういうことになると思います。ただ、いずれにしても各地区で保育所の整備が行われていきますので、私たちとしても保育の質を確保するために、より一層の保育士の確保、あるいは養成、育成ということについての取組は強化をしていく必要があると考えております。

### その他：東京オリンピック・パラリンピックについて

- 朝日新聞 オリパラに関連することなんですけど、作業部会、県ごとの作業部会が始まりまして、まだ具体的な議論にまでは達していないと思うんですけれども、予算の範囲では、現時点では仮設であるとか、組織委員会等から要請がないということで、現段階では含めていないということでもいいのかという確認と、それでもなお市として独自の事業をやっていくということで予算は組まれていると思うので、さいたま市としての役割というか、やっていかなければならないことというのを改めてお願いします。

○ 市 長 仮設であるとか、そういったことについての予算については、現時点では来年度予算には盛り込まれておりません。ただ、オリンピックの啓発イベントといいますか、スポーツフェスティバルであるとか、あるいは関連するもの、市として取り組まなければいけないものについては一部予算化をしております。

いずれにしても、4年後といいますか、3年後といいますか、かなりオリンピックも近づいておりますので、やはりそれぞれ成功させるために役割分担をしながら、準備等も検討していく必要があると思っております。

○ 朝日新聞 上田知事は、仮設の話にしても、恒久施設になるのか、あるいは本当に仮設なのか、そういった部分も含めて議論が必要だということもおっしゃっていますが、特に交通の面についてはさいたま市は多くかかわる部分があると思います。その点について、ちょっとお考えをお願いします。

○ 市 長 先日、第1回目の作業チームが行われたということを知っておりますけれども、内容としては、この東京大会に向けて各競技会場で必要となる業務内容、あるいは仮設整備に要する概算工事費用などが示されたと聞いています。

しかし、もう一方でそれだけではなくて、今お話の輸送関係であるとかセキュリティであるとか、あるいは道路の問題とか、かなり多岐にわたった問題、課題が出てくると思いますので、そういったことについても十分議論をしながら、取り組んでいかなければいけないと考えておりますので、今後やはりその作業部会等でしっかりと情報共有を図りながら、それぞれの役割分担というか、そういったことについても議論されながら進めていく必要があると考えております。

いずれにしても、私たちとしてはこのオリンピック・パラリンピックを成功に導いていきたいという思いは大変強く持っておりますので、できる限りの協力はしていくという考えは変わっておりません。

○ 朝日新聞 そのほかよろしいでしょうか。どうもありがとうございました。

以上をもちまして本日の記者からの質問を終了させていただきます。

○ 進 行 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

次回の開催は3月2日木曜日、1時半からを予定しておりますので、よ

ろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

午後2時25分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。